

## 7月第3週の礼拝 説教

■日 時：2022年7月17日（日）

■説 教：保科けい子 牧師

■説教題：「品位をもって歩み」

■聖 書：テサロニケの信徒への手紙一 第4章1-12節（新約p377）

先週一週間は、7月8日（金曜日）に起こった元首相狙撃事件を受けて、宗教にのめりこむ恐ろしさということが様々なメディアで何度も何度も報道されていました。ですから、教会の中には、週報や掲示物に「わたしたちの教会はそのような団体とは関係がありません」という文章を掲げていることがあります。この事件があって、昔からささやかれ続けてきた日本という国の政治とカルトと呼ばれている宗教の関係が、少しずつ明るみに出てきています。しかし、そのことが今後、私たちの様な正統派と言われるキリスト教にどのような影響が出てくるのかはわかりません。しかし、2000年前の使徒パウロの時代も、その後の歩みも、今も、これから後も、キリスト教の語っていることは変わりません。ですから、私たちは、どのようなときにも外からの様々な情報に踊らされることなく、聖書の語る御言葉に立って歩んでいけば良いのです。その具体的歩みの内容が、本日の箇所テサロニケの信徒への手紙一で言えば、4章の1節から12節に記されています。「**品位をもって歩み**」という本日の説教題の言葉は、そのことを一言で言い表していると言えるでしょう。一般に「品位」という言葉は、「人や事物にそなわっている気高さや上品さ。品格」という意味で用いられます。より具体的には「身だしなみや言葉つき、態度の立派さや姿の美しさなどから総合的にくみ取られる、育ちのよさや社会的ランクの高さ」と説明している国語辞典もあります。日本においては、キリスト教が伝えられた最初のころから、テサロニケの信徒への手紙一4章12節の「**そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。**」という御言葉に表されるようなクリスチャンの生活態度がすすめられたこともあり、「品位をもって歩む」ことはクリスチャンの理想の姿のように思われてきました。では、それは具体的にどのようなものなのでしょう。そのことをご一緒に考えてまいりましょう。

まず3節から6節をご覧ください。3節から6節においてパウロは、してはいけないこと、すなわち、汚れた生き方として、最初に具体的に、当時のテサロニケの人々が生きていた社会を反映した性的なモラルの低下や家庭生活の崩壊などを挙げていることに驚かされます。しかしそれは、パウロがここで見つめている聖なる生活が、建前だけの「きれいごと」ではないということの現れなのです。家族の中の一人が宗教に走って、家庭が崩壊し

たり、破産したりするような状況に追い込まれるような事態をもしっかりと見つめていかなければならないのです。そういうわけで、ここでは、キリスト教が観念的な教えに終始しそこに留まるのではなく、私たちの現実の生活の生々しいところまで深く浸透していかなければならないことが明らかにされています。そして、そのようなところにまで聖霊が働いて、主なる神を信じる者一人ひとりを支えてくださることが記されています。そこに私たちは、本当の深い慰めを与えられるのではないのでしょうか。

そして、1節に戻りましょう。「さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいます、どうか、その歩みを今後も更に続けてください」とあります。「歩む」という言葉が三回繰り返されていますが、それは具体的に言えば、「生きる」「生活する」という意味になります。ですから、「どのように歩むべきか」というのは、それはどのように生き生活するべきか、ということです。信仰に基づく生活のことが語られていくのです。使徒パウロはここで、テサロニケの教会の人々に、あなたがたは、どのように歩むべきかを既に私たちから学び、現にそのように歩んでいる、その歩みを更に続けて欲しい、と語りかけています。テサロニケの人々がパウロたち伝道者から学び、現にそのように歩んでいる歩み、それは一言で言えば、「神に喜ばれるための歩み」です。信仰に基づく歩み、信仰者の生活とは、神様に喜んでいただくための歩み、生活なのです。その生活のあり方がこの4章以下に教えられています。2節の「主イエスによって」という言葉は、「主イエスを通して」と訳すことができます。そうしますと、使徒パウロたちという人間の口を通して語られる勧めではあるけれども、本当は、主イエス・キリストを通してなされている勧めである、ということができるとは、今、皆さんの前で説教をしている私自身の場合でいえば、私自身の日ごろの言動や考え方からしたら、決して他の方々に語ることはできない「品位を持って歩みなさい」という勧めの言葉であっても、主イエス・キリストを通してなされている勧めであるならば、私自身もまた、主の前に皆様方と一緒にひざまずいて、その御言葉に聞きましょう、と語ることが許されるのではないかと思います。今、そのようにして、語っています。

では、パウロたちがそのように歩みを続けテサロニケの信徒たちへも勧めている「神様に喜ばれるための歩み」の目的とはどのようなものなのでしょう。それは、3節に「**実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。**」と記され、7節で再び言い換えられて「**神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせる**

ためです。」と繰り返されています。神様は、私たちが聖なる生活をするために招き、信仰を与えて下さっているのです。そのことは、使徒パウロたちの生きた時代も、私たちが生きている現代も変わりはありません。しかし、私たちは、自分のような者は「**聖なる者**」などには到底なれないと思ってしまいます。あるいは教会に来ているのだから一生懸命「**聖なる者**」になりたいと努力をしているはずなのに、私は偽善者ではないのか、などと自分を卑下する思いにとらわれてしまったり、他の人々からそのような批判を受けたりもします。しかし、ここでパウロが勧めるのは、そのように私たち自身が思い迷い悩む生き方ではなく、「主なる神様がそのように招かれているのだから、主なる神様のほうにあなたがたの生き方の向きを変えなさい。」ということなのです。

8節には「ですから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、御自分の聖霊をあなたがたの内に与えてくださる神を拒むことになるのです。」とあり、私たちが「**聖なる者**」として生きることができるようにと主なる神様は「**聖霊**」さえ与えてくださったのに、あなたがたはそれを拒もうとするのか、と厳しく警告しています。

そして、9節以下で語られていくのは、「兄弟愛」、分かりやすく言い換えれば、主イエス・キリストを信じている者同士のあり方についてです。パウロたちが語った「主イエス・キリストの十字架と復活、そして主イエスの再臨」という福音の内容を聞いて信じた当時のテサロニケ教会の大多数の人々は、再臨の日が到着するのを待つ一方で、日常の仕事を放棄し騒ぎ立てる人々の仲間に入って気もそぞろになって、自分をも他人をも乱すことになってしまったと言われています。通常的生活は崩壊してしまい、生計を立てるといふ課題を捨ててしまい、人々はただ興奮してキリストの再臨を待っていたと言われています。今でも、天変地異と言われるような大きな災害などが起こると、新宗教と呼ばれるものが登場してきて、自分たちの仲間になった者だけが救われるというような勧誘をします。しかし、パウロたちの述べ伝えた福音は、そのような兄弟愛ではありませんでした。11節12節に「そして、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。12 そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。」とあります。「外部の人」、それは教会における信仰の仲間たち、あるいは自分自身の家族のことのみでなく、それ以外に接する多くの人のことを指しています。彼らに対して「品位を保ち、迷惑をかけない」、それは、主イエス・キリストを信じ、主イエスに結ばれた者として生きる私たちが、そうでない人々の前で、主イエスのみ名を汚し貶めるようなことをしない、ということでしょう。しかし、私たちの誰がそのような歩みを自らの力であることができるでし

ようか。使徒パウロの書いた別の手紙であるガラテヤの信徒への手紙3章26、27節は次のように語ります。「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。27 洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」主イエス・キリストを信じるものは皆、キリストという衣を着せていただいている、聖書はそのように語っています。そして、礼拝ごとにその衣は御言葉によって新しくされていくのです。私たちはそこに立って、今日から新しい歩みを始めたいと思います。